

「エルゴナジー(職能形成学)」 の研修を受けて

神奈川県藤沢高等職業技術校 谷森 大介

私は20年ほど職業訓練指導員の仕事をしてきましたが、その中で、生徒の指導上の問題(生活指導、訓練そのものの内容)、入校者の減少や世代の移り変わり、就職状況の変化、世間一般の訓練校の評価や期待など、さまざまな問題にかかわってきました。職業訓練校の必要性は感じながら、公共職業訓練校などは存在に厳しいものも感じます。また、これまで教育学や職業訓練学について深く踏み込んで考えることはなかったと思います。学校教育と職業訓練を重ね合わせて考えることをあえて避けていたと思います。日本では圧倒的に学校教育の学校施設、そこで学んでいる者の数のほうが多いのが実態です。国や地方自治体の政策、世間の志向から仕方がないこととも思いましたが、「エルゴナジー」に出会って職業訓練は人間が生きていくための営みとして(日本の教育)より重要な意義があるのだと認識しました。このような考えはまだ日本では少ないと思います。

ドイツでは歴史的にマイスター制度、徒弟制度が文化として根付いており、職業訓練が広く国民に認知され、社会に組み込まれています。日本でも徒弟制度はありましたが、明治維新後、富国強兵のもと、それまで日本になかった科学技術の重用、などで学校教育に組み込まれなかったのでしょう。形としては伝統工芸的な分野で残っているのみです。企業内では上司と部下の関係、徒弟制度に代る形態になっているのではないかと思います。昨今、コーチングが注目されています。日本では、ビジネスマナーから特殊技能まで職業訓練的な内容はほとんど企業内

で行われることが多いと思います。

近年、日本では産業構造が大きく変わり、労働者の形態も変化しました。中高年世代ではリストラ、若年層ではフリーターの増加、NEETの問題もあります。中高年層はそれまでの職務経験を生かす道がありますが、若年層のフリーターや失業問題は深刻になると思います。この問題はいまの教育では解決しないと思います。職業訓練が重要になってくるとは思いますが、実際にフリーターの人が職業訓練校に入校してくるケースはまだ少ないと思います。職業訓練校に入校しやすくする政策はまだないといえますし、就業先を確保する政策もないと思います。派遣業や請負業の政策も問題が多くあると思います。

「エルゴナジー」では、世界規約から見れば日本での「教育」と「職業訓練」の認識が異なることについてわかりましたが、世界規約の成り立ちの過程や考え方(もう少し詳しく聞きたかった。)が、人間が生きていくための営みであることを表しているということが広く認識されれば、「エルゴナジー」が広く認識され「職業訓練」も正当に認識されると思います。日本ではまだ、明治維新以来の立身出世の固定化した概念が根強いのかもかもしれません。

しかし、今回(2004年12月)の研修を受けさせていただいて、職業訓練の意義や重要性を新たに認識させていただいたことに感謝いたします。職業訓練の一端を担うものとして誇りを感じさせていただきました。微力ながらこれからもよりよい職業訓練を目指していきたいと考えます。ありがとうございました。